

東海3 県の児童養護施設における食事 状況調査(そのII)

NPO 法人 こどもサポートネットあいち
〒462-0058 愛知県名古屋市北区西志賀町 5-13-1

助成事業の概要

2023 年度に児童養護施設における食事の現状と問題点を明らかにするとともに、児童が施設を退所後、健康で安定した食生活を送ることができるような「食の支援」を行うための基礎資料となるデータを得ることを目的に、愛知・岐阜・三重各県に所在する児童養護施設（本体施設・地域小規模児童養護施設）の生活担当職員及び献立作成者各1 名ずつを対象に、施設の食事状況や職員の食や食育に関する意識などについてアンケート調査を行った。その結果、「食事のマナーがわからない」、「料理の仕方がわからない」といった児童の食の自立といった将来に向けた課題に対する認識はあるものの、実際の食育では「食事のマナー」、「食べ物を無駄にしない」、「みんなで楽しく食事をする」といった日々の食事に関するものが中心となっていることがわかった。

そこで今年度は、児童養護施設で暮らす中学生及び高校生を対象に児童の食や生活に関する状況や、食に関する意識や知識などについてアンケート調査を行い、将来の自立等に向けての意識をとらえるとともに職員及び施設に対してもアンケート調査を実施し、児童の食に関する意識や知識に影響を与える要因についても検討を加えることとした。

愛知・岐阜・三重各県に所在する児童養護施設に対して事前に調査への協力が可能か意向確認を行い、「協力できる」との回答があった29 施設に調査用紙を送付した。調査用紙は回答者の氏名・施設名ともに無記名とし、各自で封筒に入れ封を

したものを施設でとりまとめて返送してもらった。調査時期は2024 年7 月とした。

事業の成果

児童370 名、職員484 名、施設22 施設から回答があり、アンケート調査に「同意しない」となっていたもの及びすべて無回答であった児童16 名、職員4 名分を除外し、児童354 名、職員480 名（有効回答率：児童75.6%、職員75.6%、施設75.9%）について結果をまとめた。主な調査結果は下記の通りである。

[1] 児童の調理について

児童が「調理をする頻度」は、「ほとんどない」が44.9%と最も割合が高かった。「1 人で作ることができる料理」は、「インスタントラーメン」が最も高く89.0%、次いで「目玉焼き」が77.7%、「みそ汁」が61.6% と高かった。全体的に、「調理をする頻度が高い」ほど「1 人で作ることができる」割合が高くなる傾向があった。

[2] 自立後の食について

施設を退所して自立後自分や家族の食事を「作りたいと思う」児童は77.7% だったが、「できると思う」児童は51.4% だった。いずれも「調理頻度」が高い児童ほどそのように思う児童の割合が高くなる傾向がみられ、特に調理頻度が「週1 回以上」の児童は「作りたいと思う」と「できると思う」割合の差が小さかった。

施設を退所後、自分の食生活について不安に思うことでは、「栄養のバランスがわからない」が24.6%、「食材の鮮度や品質がわからな」が23.2%

と比較的高かった。一方、職員が「自立後の子どもの食生活で課題となる」ということでは、「外食ばかりになる」50.2%、「料理ができない」49.8%、「食材の値段がわからない」46.7% などが高く、児童と職員とでズレがみられた。

[3] 食育について

職員の「食育への関心」は、「ある」36.7%、「少しある」51.3% と昨年度の調査と同様に高かった。年齢では「50歳代以上」で特に高く、「とてもある」が半数を超えていた。また経験年数が長くなるほど、「とてもある」の割合が高くなる傾向があつた。

「行っている食育」は、「行っている」、「時々行っている」を合わせて「食事のマナーを守る」が最も高く97.9% であり、「食材や食品の品質・選び方」が最も低く42.7% だった。

[4] 職員の食事づくりについて

「子どもたちの日常の食事づくり」について、「下ごしらえからすべてしている」職員は48.5%、「料理の仕上げのみしている」職員は10.2% だった。

「食事づくりに負担を感じるか」については、「あまり負担に感じない」が37.7%、「少し負担を感じる」が34.1% であった。負担を感じる理由として、「料理が苦手」というものが多かったが、「料理に時間を取られ子どもとの関わりが減る」といった意見も多くみられた。逆に負担に感じない理由としては、「料理が好きだから」という意見が多かった。

のアンケート調査の報告では6月に大阪にて全国の児童養護施設職員の研修会にて報告をさせていただきました。今年も6月に東京で開催される全国の児童養護施設職員の研修会においても報告予定である。

今後の展開

多くの児童・職員から回答を得られたことから、その属性による傾向など結果について詳細な検討をし、関係学会等での発表や論文投稿を行うほか、児童養護施設関係者以外へもデータを周知していきたい。

また調査により多くの量的なデータを得ることができたが、今後はこれらを踏まえてインタビュー調査などの質的な調査も行い、社会的養護の下で生活する児童への「食の支援」に役立つものとしていきたい。

成果の広報・公表

今回の調査結果について報告書を作成し、愛知・岐阜・三重の児童養護施設、児童相談所、市町村の児童福祉担当部署に配布するとともに、「こどもサポートネットあいち」のホームページにおいても公表する。児童養護施設の食事に関する調査は限られておりデータも少ないことから、上記以外にも機会があれば積極的に公表していきたい。昨年